



中間貯蔵施設大熊 2 工区を巡視点検中の様子

●レビュー●

区域内の防犯・防災対策による安全・安心への取り組み

中間貯蔵施設区域内には土壌貯蔵施設をはじめ、様々な施設が整備されています。
それらの施設をはじめ、区域内を安全・確実に管理運営していくことが非常に重要だと考えています。

現在、中間貯蔵施設区域内では、令和 6 年 3 月までに大規模な工事が概ね完了し、車両や作業員が減少し静かな状況にあります。また、近年、台風や大雨による気象災害が毎年のように発生し、大きな影響を与えています。このような時こそ、中間貯蔵・環境安全事業株式会社（JESCO）が担っている日々の防犯・防災への取り組みが一層重要であると考えています。ここでは、その取り組みの一例をご紹介します。

JESCO では、土日祝日を問わず毎日数班体制で広い中間貯蔵施設区域内の各種施設を巡視点検しています。また、施設の見学や視察の件数も増えてきており、安全にご覧いただくためにも、道路の轍、施設の階段、倒木のおそれのある枯れ木の状況など、細部にも目を配るように心がけています。

大規模な工事がなくとも、日々の変化はあるため、気になることがあれば直ちに環境省の担当者に報告するとともに、必要に応じて消防や警察へも通報する即応体制を整えています。

さらに、巡視点検の際には車両に「巡回中」というステッカーを掲示し、区域内で勤務する他の関係者にも明示するとともに夜間も区域内パトロールを実施しています。これらに加え、区域内の複数個所に防犯カメラを設置し、防犯のための「監視中」という大型看板を設置することにより、犯罪の

未然防止にも取り組んでいます。

また、これからの時期は空気が乾燥し、火災が発生した際に炎が燃え広がりやすい季節となります。区域内の巡視点検では、そのような万一の火災の際に消防水利やため池の水が問題なく使えるように、水位・水量のチェックをすることも行います。

このような体制や取り組みを日々維持して実行していくためにも、ドローンや資機材の点検・補充も怠らないようにしています。

これらにより、今後も、地域の皆様に安心していただけるよう日々の活動を通じて防犯・防災に努めて参ります。



巡回中の JESCO 車両

● 中間貯蔵施設区域の思い出写真集づくりが進められています

中間貯蔵施設は、大熊町と双葉町をまたぐように整備されていますが、この区域には、東日本大震災に伴う原子力発電所の事故が発生するまでは、多くの方が暮らしていました。JESCO では、この中間貯蔵施設区域内で地域の記録を残すお手伝いをさせていただくとともに、地元住民の思いを県内外へ広く発信させていただくため、環境省から委託を受けて、区域内の行政区ごとに「思い出写真集」の作成を進めており、これまで、双葉町の郡山行政区、大熊町の熊川行政区と野馬形行政区で完成しました。写真集は、神社やお寺、学校、盆踊りやスポーツ大会など地元の方々が持つ地域に根差した写真（震災前のものから現在まで）をお借りし、思い出をお伺いしてまとめています。

今年3月に完成した野馬形行政区の写真集の作成に尽力された、(当時) 区長の土屋繁男さんが「写真集を見て懐かしそうに話し合う姿が見られたのはうれしかったですね。」と完成後最初の行政区総会での様子を話してくださいました。

土屋さんは以前から「野馬形を残したい」という思いがあり、歴史を掘り起こし年表づくりもしていました。

そんな時に JESCO から写真集づくりの打診があり、「すぐに取り組もう」と思ったと土屋さんは語ります。

住民が全国に散らばっている中で、どうまとめるか。写真の収集など大変な面もあったが、住民の協力がありまとめることができたそうです。

地元の方々のご協力により作成された写真集は、行政区や町役場へお配りするとともに中間貯蔵工事情報センターに配架しています。今後は、地元の方々の思いを県内外へより広く発信していくためデジタルコンテンツとしても整備していくことを検討しています。



思い出写真集を手にする土屋さん

● 9月5日に知のネットワーク会合を開催しました



「第13回 環境放射能除染研究発表会」の企画セッションにおいて、「第9回 知のネットワーク会合」を開催しました。

今回は、「若者に伝えたい中間貯蔵事業のこれから」と題し最新の教育手法やホープツーリズムの考え方についての専門家をお招きして講演頂くと共に、大学生や中間貯蔵事業を進める環

境省・JESCO も交え意見交換を行いました。

参加頂いた学生からは、「中間貯蔵事業を多くの若者に知って頂くためには、現地を見ることが何より大切である」「知って頂くきっかけとなるには、この地域の魅力的な食べ物や風景など、興味を引くコンテンツがあった方が良いのでは」との趣旨のご意見等が出されました。

また、後半は「除去土壌等の減容等技術実証事業」の成果を事業者様にご報告頂きました。抱える技術課題も年々変化してきている中、実用的な技術を発表頂きました。

当日の講演資料は
こちらから
ご覧いただけます。



情報センターだより

▼見学者アンケート

●やはり根気よく説明を行い、理解を深めてもらうことも大切ですが、今回のように実際に見たり、体感することが大切だと思います。百聞は一見にしかずともいうので積極的に見学会などを推進していくのが良いと思います。／長野県 10代

●安全性を伝えていくのは大切だと思いますが、それをきちんと理解するか(できるか)というのは難しい問いで、どうしたらお互いの理解を深められるか。。難しいです。／長野県 30代

●現状を体験することが一番ですが、体験した私達がまずは周囲に伝えていくことが大切だと感じました。／東京都 50代

▼情報センター見学のご案内

中間貯蔵工事情報センターは無料で見学できます。
(中間貯蔵施設の見学は事前の申込みが必要です。)
詳しくはホームページをご覧ください。



福島県双葉郡大熊町大字小入野字向畑 256

編集後記



・センニンソウ

本号は中間貯蔵施設内の安全管理について取り扱いました。
区域内での作業中、ふと足元にきれいな白い花が咲いているのを見つけました。